

パブリック  
コメント  
【検討結果】

寄せられた意見の概要や  
市の検討結果をお知らせします

<b>事案名 西東京市スポーツ推進計画(素案)</b> ▶スポーツ推進課 ☎042-420-2818	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年11月15日~12月14日 <b>【意見件数】</b> 34件(31人)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
テニスコート新設に関する意見(21件)	テニスコートの需要が高いことについては認識しているところではありますが、新たなテニスコートなどのスポーツ施設の整備には、用地の確保に加えて、財源面を含め、さまざまな課題があると考えています。そのため、周辺施設の状況の変化を踏まえた公共施設全体の適正配置と合わせた検討が必要であると考えており、利用者の皆さんの声に応えられるよう検討します。
MUFG PARKの活用に関する意見(4件)	MUFG PARKの利用補助などについては、他の民間テニスコートとのバランスやほかの競技との整合など課題がありますが、引き続き、MUFG PARK関係者との協議や検証を進めます。
学校施設の活用に関する意見(2件)	学校施設のテニスコートなどの活用に関しては、本計画において有効活用できるよう取り組みます。

<b>事案名 西東京市第3期文化芸術振興計画(素案)</b> ▶文化振興課 ☎042-420-2817	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年10月17日~11月17日 <b>【意見件数】</b> 12件(8人)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
文化芸術振興施策の推進に当たり広報が不十分なため市民への認知度が低い。PRを活用するなど広報の工夫が必要と思う。(3件)	第3期文化芸術振興計画では、基本方針1施策4に「市民に届く効果的な文化芸術情報の提供」を位置づけ、媒体ごとの特性を踏まえ、効果的に活用するとともに、発信力のある媒体や人材との連携により、市の内外に向けた文化芸術情報の発信の取組を進めます。
コロナ禍後の久しぶりの西東京市民文化祭で、会場も武蔵野大学の講堂で素敵だった。合唱の部のコーラスを拝聴し、しばし幸福感に浸った。文化の役割は大きい。元気をもらった。(1件)	文化芸術に触れることで得られる楽しさや感動などが、心の栄養となって、人生におけるさまざまな課題を解決するための活力になるとともに、心と体が休まり人々の交流が生まれるいいこの場づくりにもつながり、子どもから高齢者まで生涯を通じた「心身の健康」の実現に貢献すると認識しています。その効果を意識しながら、文化芸術に関する施策の推進を図ります。
計画の中に「美術館(博物館)建設」を入れてほしい。その美術館(博物館)には学芸員を配置し、文化都市西東京市の威信を高めてほしい。(1件)	美術館の建設については、設置場所や財源確保など、さまざまな課題があるものと認識しています。第3期文化芸術振興計画においては、身近な場所で文化芸術鑑賞ができるよう、既存の公共施設の有効活用のほか、令和6年12月に供用開始を予定している(仮称)西東京市民文化プラザにはピクチャーレールを設置し、展示場所の確保を図ります。

<b>事案名 西東京市教育計画(素案)</b> ▶教育企画課 ☎042-420-2822	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年12月11日~令和6年1月10日 <b>【意見件数】</b> 15件(5人)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
掲げている目標や計画は素晴らしいものだと思いますが、それを実行する教職員がこれを全て理解できるのか不安です。児童生徒と直接関わる教職員がこれを理解していないと実行できないと感じます。(1件)	校長会議などを通じ、全教職員へ広く周知し、実行性のある計画の推進に努めます。
小中学校での少人数学級(30人以下)を導入してほしいです。学校教員の仕事は多く、手が足りていません。子どもに目が行き届かなくなり、荒れた学級になってしまった例も何度も見てきました。こういった場合、ついていけないようになった児童が不登校になってしまうこともありました。意欲がある先生でも退職されてしまった方もいらっしゃいました。子どもと先生方のためにもぜひ少人数学級を実現していただきたいです。(1件)	現在は、「東京都公立小学校、中学校、義務教育学校及び中等教育学校前期課程の学級編成基準」に基づき、令和7年度の小学校全学年35人学級に向け、順次対象学年の引き上げを行っています。市独自で30人以下の学級編成を行うことは難しいところですが、まずは35人学級編成において、安定的な学校運営を目指していきたいと考えています。
今後も建て替えが必要な学校は次々と控えているので、新校舎を建てる際はもっと質素にすべきだと思います。(1件)	現在策定中の「学校施設個別施設計画」の中で検討しています。

<b>事案名 西東京市第2次みどりの基本計画(素案)</b> ▶みどり公園課 ☎042-438-4045	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年12月4日~令和6年1月4日 <b>【意見件数】</b> 92件(7人 1団体)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
民有地の屋敷林を守ってほしい。特に下保谷三丁目にある屋敷林(作左衛門の森)について、特別緑地保全地区指定に向けたより具体的な記載をしてみどりの基本計画に位置づけて、歴史的価値のある屋敷林や建物を一体としてそのままの形で保全してほしい。(6件)	個別の案件につきましては、既存指定箇所である下保谷四丁目特別緑地保全地区を保全しつつ、活用に取り組み、新たな指定を行う際は効果検証が必要であると考えています。いただいたご意見も踏まえ、歴史文化や環境、防災的な価値など、多角的な視点で効果検証に努め、総合的に判断しながら指定について検討していきます。
「施策の柱Ⅰ」に「みどりをまもる」を持ってきたのは全体理念からして大賛成である。(2件)	施策の柱であるみどりをまもる、整える、つくる、活かす、伝えることで基本方針および将来像の実現を目指します。
西東京市も小規模な広場が多いため、防災性を高めるためには防火性能の高い樹種を植える必要があるとの記載が必要である。(2件)	ご意見の趣旨を踏まえ、記述を加筆修正します。

下表は、市民の皆さんからお寄せいただいた意見を要約し、市の考え方をまとめたものです。

全文は、情報公開コーナー(田無庁舎5階)・市庁舎でご覧になれます。

<b>事案名 公共施設等総合管理計画・公共施設再編計画(素案)</b> ▶公共施設マネジメント課 ☎042-420-2800	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年12月1日~令和6年1月5日 <b>【意見件数】</b> 67件(19人)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
地域子育て支援センターが位置付けられる基幹型保育園を中学校通学区域に1つにするなら、現在基幹型保育園がない区域にまず基幹型保育園を設置した上で進めるべきである。基幹型保育園を区域に1つにしたとしても、基幹型保育園でなくなってしまった保育園は、廃止するのではなく、民営化等により保育施設や「赤ちゃんから遊べる場所・相談できる場所」としての機能を残すべきである。近い将来の保育ニーズを見据えた施設のあり方の検討をしてもらいたい。(5件)	地域子育て支援センターを併設した公立保育園については、中学校通学区域に1か所程度の配置を基本としています。重複している場合の公立保育園については、民間事業者の創意工夫を生かした保育の実施や保育環境の整備・充実などを見据えて民設民営化に取り組む予定です。地域子育て支援センターについては、公共施設の更新や複合化などと併せて、中学校通学区域に1か所程度の配置となるように設置していく予定です。総数が増え、近接する中学校通学区域にも設置されることにより、徒歩・ベビーカー利用の方にも比較的に通いやすくなるものと考えています。また、地域子育て支援センターが、徒歩・ベビーカー利用では通いづらいような地域や、空白になっている中学校通学区域については、公民館や児童館などの公共施設を活用して地域子育て支援センター職員による出張事業を実施するなどして、子育て支援・相談機能を確保できるよう検討します。いただいたご意見については、今後の公共施設の再編の参考とさせていただきます。
小・中学校の複合化を行う際は、児童の安全を最優先にできるよう、セキュリティ対策をしっかりし、一般利用者が安易に教育現場に入れないようにしていただきたい。また、市の保有する公共施設の約6割が小・中学校だから不公平という考え方はせず、子どもも真ん中市政を掲げている西東京市がこの教育施設を縮小することなく、全ての市民が使えるように改築していただきたい。(3件)	「学校が地域のキーステーション」であるとの認識のもと、学校を核としたまちづくりに取り組むことから、人口動態などの地域特性や他の公共施設の状況を踏まえつつ、児童・生徒の安全性に配慮したセキュリティ対策を講ずることを原則として、学校施設の地域利用や建替えに伴うほかの公共施設との複合化を検討していきます。

<b>事案名 第3次西東京市健康づくり推進プラン・第2次西東京市生きる支援推進計画(素案)</b> ▶健康課 ☎042-438-4037	
<b>【公表日】</b> 2月15日(木) <b>【募集期間】</b> 令和5年12月15日~令和6年1月15日 <b>【意見件数】</b> 10件(7人)	
寄せいただいた主な意見	検討結果
体操グループの活動(活動団体・活動場所・活動時間等)をもっと周知してほしい。体を動かしたいと思っているが、どこに行けばいいのか分からない人が多い。(1件)	本計画掲載のさまざまな事業の実施を通じて、また関連する周知啓発の機会を活用するなどし、情報発信をしていきます。
フレイル予防は、基本目標の「2. 健康的な生活をおくれるまち」ではなく、「1. 健康寿命を伸ばすまち」とし、施策の「生活習慣病予防の推進」と同様に「フレイル予防の推進」を記述することを提案します。また、P18の「施策体系」において、「事業例」に「フレイルチェックの実施」の追加、P19の「基本目標1：健康寿命を伸ばすまち」において、「高齢者だけでなく、40~50歳台にも筋力低下によるフレイル化傾向が増加」や「健康状態の把握のためフレイルチェックへの参加」などの文言を追加しては如何でしょうか。この「2. 健康的な生活を送れるまち」の展開・記述される施策は、「1. 健康寿命を伸ばすまち」を実現するために生活習慣を改善する具体的な施策が記述されるべきだと思います。(1件)	基本目標1「健康寿命を伸ばすまち」では、疾病予防・重症化予防の観点からの施策群とし、本市の状況に合わせ、生活習慣の改善などにより多くが予防可能である疾患(循環器疾患・糖尿病・メタボリックシンドローム)に関する目標を設定しています。フレイルは、年齢を重ねて心身の活力が低下した状態のことを指しており、疾患ではないこと、適切な心がけをすることで自立した状態を維持できるものであることから、フレイル予防は、日常生活における望ましい生活習慣への改善・維持を目指す基本目標「2. 健康的な生活を送れるまち」の範疇としています。
健康ポイントアプリ「あるこ」に、データ参照機能(自分の健診記録やフレイルの自己確認の記録等)を設け、適切なメッセージを配信する機能(個人データを基に「口腔・栄養・運動・社会参加」に関する市のイベントとのAIによるマッチング)の追加等、今後の研究・検討が期待されるデジタル化推進策を計画に盛り込んで如何でしょうか。(1件)	健康ポイントアプリ「あるこ」は、現在、健診結果、体重や食事、飲酒・喫煙の記録のほか、動画の配信など、16種類以上の機能を設けています。また、市が実施している事業や健康に関する情報をインフォメーション記事として発信しています。内容によっては、登録者の性別・年代の情報から対象者を選定した配信を行うなどの工夫をしています。本計画の推進におけるデジタルを活用した取組については、計画期間中の技術やサービスの進展に適宜対応していくほか、既に活用している仕組みについては、さらなる活用的高度化・拡充と利用者の拡大に取り組みます。